

# 磐城時報

編輯 石城郡平町新屋町十四  
印刷 石城郡平町新屋町十四  
發行 石城郡平町新屋町十四  
電話 一四四  
代金 一ヶ月金拾圓  
廣告料 一行十四字拾圓五拾錢  
日刊(日曜、祭日)休刊

## 豫期の成績あがらず 四倉繭市場閉場 前年より三万圓の減

去る六月十三日から開所した四倉三十一錢、黄繭九千八百九十倉繭市場は二十八日を以て閉場七圓二錢で總計四萬九千五百四十四、最初は前年の二倍を取扱十四圓三十三錢、前年に比較してはうといふ意気込みであったが三萬二千九百四十五圓六十六錢に至る處に猛烈な賣買競争が演ぜられたので天候桑葉等の關係で費用を計算すると繭を賣つても取柄が不成績であつた等が原因で総取引額は白繭一萬六千二百二十八貫二百七十匁、黄繭四千五百八十八貫二百八十匁、合計二萬四千二百五十六貫五百五十四匁で、昨年の状態である。同市場本年取引春繭取引に比べると七千九百三十四の如くである。

## 鮫川疏水復活と決し 地方民舉げての喜び

石城郡植田町外一町七ヶ村の耕ま、今日に至つたが、今回同會田七百餘町歩を灌溉する鮫川疏水の水利権は失効したので多年水は水路の上方に水利権を有する同疏水の復活に努力した前縣議の鮫川電力との間に水路の問題古川傳一氏は農林省に對し猛進督指導し採炭の合理化が期待されてゐる。

### 七月四日調査委員會を開き 復活實施の協議

石城政友會では三十日午後一時から平町大村屋旅館に於て来る九月行はれる貴族院多額納税議員の選挙に關し種々打合せをなすべく幹部會を開く事になつた

## 石城政友會で 貴族院議員選挙対策

三十日平町に開く  
鮫を捕つて  
検挙さる

双葉郡久之濱町鈴木安勝(三〇)の三名は去る二十六日午後二時頃大久村地内大久川で鮫を釣つたこと發覺平署に檢舉取調されてゐる

## 平町公會堂の設計圖 超モダンの建築

平町が總工費五萬餘圓を投じて十間、奥行十四間の大集會堂が建設せんと豫て設計中であつた階上、階下にあつて舞臺から映公會堂はこの程大體の設計が出寫室まで設けられ、また疊百餘來上つた。設計圖によると間口敷の大廣間が別館に建設され、

## 暑中休暇を利用し 少年行商隊組織 連絡小學校の計劃

既報平町の職業紹介所では郡内前東側には池の中にモダンな連絡小學校と協力児童の職業幹大鼓橋が架してある。更に和洋施に努めた結果就職希望の全児童の調理室が完備してあり、童を完全に就職せしめる事が出来たのである。更に和洋來たので各方面から非常に喜ばれてゐるが連絡小學校以外にも就職希望の児童が相當多量ある見込で今後は凡ゆる機會を利用して職業思想と紹介所の利用を宣傳普及する事となり目下各種の計劃を進めてゐるがさし當り郡内小學校で講話會を開く事及び今夏の暑中休暇中に少年行商隊を組織して就職希望児童に實際の職業を教育する等を企劃連絡小學校と協議中だが少年行商隊組織は新しい試みだけに期待されてゐる。

## 煙草小賣人番付 平町の最高四千二百圓

平地方煙草小賣人組合でこの程買受高の少ないのは東の方では白岡未滿が平町の高木保子の十一圓、入遠野村の鈴木正松六十二圓、大浦村の吉田忠太郎八十六圓、西の方では夏井村の木田銀治郎六圓、飯野村の鈴木富治六十圓、玉川村の齋藤仙太郎七十八圓等である。

### ハガキ集

先日のメツカツチ君へ  
私は決して君に對して絶對挑戰的態度は採つて居ない、然し私は君の誤解を受け居る。私も〇〇會に入會して居る限り或る者を投稿する殺那に無欺書を讀まれて終つたので故に先生に誤解を受けられるのは無理も無い。亦先生の醜惡行為に對して此れは根本から嘘詐に過ぎない事を讀者に云ふ。亦君も私に對して亦先生に對しても投稿で無き事を証明して貰ひ度い。(迷惑生)

## 伊藤村長の 嚴父逝く

飯野村大字北土飯野村長伊藤見込で今後は凡ゆる機會を利用して職業思想と紹介所の利用を宣傳普及する事となり目下各種の計劃を進めてゐるがさし當り郡内小學校で講話會を開く事及び今夏の暑中休暇中に少年行商隊を組織して就職希望児童に實際の職業を教育する等を企劃連絡小學校と協議中だが少年行商隊組織は新しい試みだけに期待されてゐる。

## 爆薬發見

廿七日午後三時頃石城郡警備村大字藤原字一本木地内水溜桶中の高齡である、葬儀は七月二日午後三時自宅出棺國寺に於て佛式により執行すること。

## 溜桶から

## 取引先で横領

住所不定宮城縣蓋登町生れ小松幸治(二四)は平町紺屋町扇製造業武田義亮方に雇はれ、三月十六日取引先の内郷村御臺境久野屋商店から五圓八十錢、外九件三十九圓余を横領費消したこと發覺平署に檢舉取調されてゐる

東の横綱が戸部光術(警備村)四千二百九十圓、大關が菊地徳太郎(亦井村)四千三十三圓、關脇が岩本重雄(平)三千六百十九圓、小結が石井たまた(平)二千八百八十六圓、前頭筆頭が須藤すみの(平)二千八百二十圓、西では横綱が柴田てい(平)四千二百八十二圓、大關が齋藤鐵次郎(平)三千七百三十三圓、關脇が柏原義一(平)三千三百七圓、小結が佐藤庄次(小名濱)二千八百三十三圓、前頭筆頭が猪狩わか(平)二千七百九十三圓等であるが、これに對して一番

## 鮫を捕つて

## 超モダンの建築

## 平町公會堂の設計圖

## 少年行商隊組織

## 煙草小賣人番付

## 取引先で横領

## 溜桶から

## 爆薬發見

## 伊藤村長の嚴父逝く

讀者論談

投稿 歡迎

青年諸君へ

(九) 四倉町 吉田松雄
才氣煥發に任せて立板に水を流す如く手を運ぶものは一時は調子よく最後の五分間に不覚を取る俚がある。

3、現實と理想
現實と理想...それは「實」と「華」との関係である。青年は現實の實よりも理想の華を好む。老人は兎角自分の青年時代の経験をケロリと忘れて終つて、青年が理想の華を歩むことに就いて一言の下に非難するが、それは老人の間違った觀念だ。非難すべき現實の實のみあるを知つて理想の花を忘れて居る老人こそ非難すべきである。然らば理想の花のみに憧憬するのが好いかといへば決してさうでない。理想の花あつて現實の實を結ぶのだ、その實が結ぶので理想の花に價値が生ずるのである。理想の花なくして現實の實が結ばない。現實の實を離れて理想の花の價値がない。この兩者の因果關係は花あつて實あつての花である。決して單獨に存在の意義と價値を説明出来るものでないと思ふ理想が人生の萬花鏡だ、透明だ、光明だ、これに反して現實は多くの場合矛盾だ、不透明だ、斯ふ云ふと理想を讚美する理由こそあれ現實の必要を肯定する理由は無いやうにあるが、嚴肅に考察して見ると矢張り現實の存在の理由が儼として有るのだから人生は面白く趣味が深い譯である

電話特別開通ノ申込受付

- 一、受付期間 七月(自十一日)二十日
一、設備費用 金貳百四拾圓(前年ハ四百圓ノ處)
一、申込用紙 當局ニ備付アリ
一、其他 詳細ハ當局窓口又ハ電話七〇〇番ニ照合ノコト
昭和七年六月二十一日

平郵便局

公債 高價買入 勸業債券

電話賣買
御一報次第店員參上可仕候

佐々木株式会社
電話二五三番

例年の通り

氷水 始めました

多少に拘らず御用命御引立の程願上ます。
アイスクリーム(山盛) 金十錢
あづきアイス(同) 金五錢
ミルクセイキ(同) 金十五錢
ソーダ水 金十錢

其他氷水各種

出前迅速

藤寅
平町一丁目
電話一四二番

秘傳腫物湯

のんで効く
はれ物の妙薬
主一、面癩、よう乳の腫れ、指のはれ、林巴腺の腫れ、耳鼻のおでき、骨膜炎、筋炎、はれ物手術の前後、効一等よし

- 特約店
平町四丁目 小野薬店
植田町 松本薬店
湯本町 岩瀬屋薬店
平町南町 富岡町 莊野薬店
腫物湯 製劑所 茨城縣下孫 磯野健生堂

専門内科一般

内科ハ何デモ診療致マス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五改(電話一八二番)

川井内科診療所
醫學士 川井重子
女醫 川井安子

病室完備
X光線科
上田外科醫院
電話一二九番

高久病院

平町田町(電話五二三番)
醫學士 高久忠
新瀉醫學士 赤羽清雄
藥劑士 佐竹菊雄
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

謹啓 父伊藤芳吉病氣の處六月二十八日午後十一時三十分死去仕候間御通知申上候
追而葬送の儀は来る七月二日午後三時自宅出棺寶國寺に於て佛式相嘗み候
昭和七年六月廿九日

石城郡飯野村
伊藤淺之助
親戚總代 芳賀元治
友人總代 山崎吉平

外科 整形外科 醫學士 松永憲一
外科一般

産科 婦人科
院長 木村寅次郎
平町字新川町
木村病院
電話一六四番

耳鼻咽喉科専門 氣管食道科

病室完備...自炊の便あり
平町南町 大和田醫院
電話一七〇番

看護婦會
會長 清野キヨ

看護婦派出の需めに應じます
平町南町(電話三〇七番)